



# McAfee Management for Optimized Virtual Environments AntiVirus

**仮想環境に最適で柔軟なセキュリティを提供します**

## 主な利点

### マルウェアスキャンの負荷軽減

- メモリと処理への影響を抑えて迅速に保護

### アンチウイルスストームの回避

- オンアクセススキャンと定期的なスキャンのオプション

### 柔軟な導入

- マルチプラットフォーム(様々な仮想環境に対応)、またはエージェントレスでVMware環境に導入

### 最小限のセットアップと更新

- 強力な専用仮想アプライアンスを提供

### 最新の脅威情報を用いた脅威の阻止

- McAfee Global Threat Intelligenceを活用したリアルタイムのファイル分析

### 侵入防止およびWeb保護

- デスクトップファイアウォール、メモリの保護、Webアプリケーションの保護

### McAfee ePOソフトウェアの活用

- すべてのエンドポイントをわかりやすく表示し、運用したりレポートを作成

従来のウイルス対策は仮想環境で十分な性能を発揮できません。McAfee® Management for Optimized Virtual Environments AntiVirus (McAfee MOVE AntiVirus)は、仮想化されたデスクトップとサーバーに最適なマルウェア対策を提供します。様々な仮想環境に対応するマルチプラットフォーム導入や、VMware vShield用のエージェントレス導入を選択できます。いずれの場合も、柔軟で強力なセキュリティと高いパフォーマンスを活用できます。

McAfee MOVE AntiVirusは、仮想環境におけるリソースの制約に合わせてウイルス対策を最適化できます。そのため、ハイパーバイザーのリソースに対するインパクトを最小化しながら、最新のセキュリティスキャンをポリシーに合わせて実行できます。

## スキャンアーキテクチャの最適化

ゲストデスクトップと仮想サーバーは動的な環境のため注意が必要です。オフライン中にマルウェアに感染させないようにしたり、またユーザーがセッションを開始したらずくにスキャンが実行できなければなりません。マルウェア対策以外の処理が稼働しているため、多くのユーザーが同時に作業を行うと、負荷が急速にピークになる「アンチウイルスストーム」が発生することがないようにしなければなりません。

スキャンが他の処理を邪魔にならないよう、また遅延を防止するため、McAfee MOVE AntiVirusは個々のゲストのイメージのスキャンや、設定、ウイルス定義ファイルの更新は、仮想アプライアンスのオフロードスキャンサーバー側でのみ実行されます。スキャンしたファイル情報をキャッシュで保持するため、ファイルスキャンによって感染していないことが確認されたファイルは、再度スキャンのために待たされることはありません。また、各仮想マシンに割り当てられるメモリリソースが少なく済むので、リソースを有効活用できます。スキャンのスケジュールをオンデマンドで柔軟に設定できるため、スキャンのためにハイパーバイザーのパフォーマンスが低下することはありません。

## データセンターにおける完全な視覚化

データセンターのセキュリティ管理者は、仮想環境全体を可視化することに多くの時間と労力を費やします。McAfee Data Center Connector for VMware vSphereを使用すると、仮想データセンターを完全に可視化でき、サーバー、ハイパーバイザー、仮想マシン、クラウドなどの重要な資産をMcAfee ePolicy Orchestrator® (McAfee ePO™) コンソールに追加できます。クライアントはMcAfeeの保護の有無を問わず、VMを検出して可視化できます。この完全な可視化によって、データセンターの保護を容易に実現することができます。また、管理者はハイパーバイザーとVMの関係、セキュリティの状況、稼働状況をほぼリアルタイムで監視できるだけでなく、カスタマイズ可能なダッシュボードによって、セキュリティスキャンの状況、概要、セキュリティ履歴データを一目で把握できます。McAfee Server Security Suite EssentialsとMcAfee Server Security Suite Advancedを使用すると、Data Center Connectorを追加して、Amazon AWSのパブリッククラウド、Microsoft Azureのクラウド、OpenStackベースのクラウドにも拡張できます。

**McAfee MOVE AntiVirusの構成**

**McAfee MOVE AntiVirus for Virtual Servers**

- McAfee MOVE AntiVirus
  - マルチプラットフォーム導入
  - エージェントレス導入
- McAfee MOVE AntiVirus Scheduler
- McAfee VirusScan® Enterprise for Offline Virtual Imagesソフトウェア
- McAfee VirusScan Enterprise for Windows (スキャンサーバー用)
- McAfee VirusScan Enterprise for Linux (スキャンサーバー用)
- McAfee Data Center Connector for vSphere
- McAfee Boot Attestation Service (Intel® Trusted Execution Technology (Intel TXT) サポート)
- McAfee ePolicy Orchestratorソフトウェア

**McAfee MOVE AntiVirus for Virtual Desktops**

- McAfee MOVE AntiVirus
  - マルチプラットフォーム導入
  - エージェントレス導入
- McAfee MOVE AntiVirus Scheduler
- McAfee VirusScan Enterprise for Offline Virtual Images
- McAfee VirusScan Enterprise for Windows (スキャンサーバー用)
- McAfee VirusScan Enterprise for Linux (スキャンサーバー用)
- McAfee Data Center Connector for vSphere
- McAfee Host Intrusion Prevention System
- McAfee SiteAdvisor® Enterpriseソフトウェア
- McAfee ePolicy Orchestratorソフトウェア

**詳細なポリシー管理**

McAfee MOVE AntiVirusではポリシーの設定と運用に、使い慣れたMcAfee ePOのコンソールを使用できます。また、仮想デスクトップと物理システムの情報を統合して、ダッシュボードとレポートを作成できます。McAfee Data Center Connectorを使用して、VM、クラスタ、データセンターごとに独自のポリシーを設定できるため、管理者はそれぞれのセキュリティ要件と、データセンターの構成に合わせてセキュリティを適用できます。

**McAfee MOVE AntiVirusの新機能**

**管理と可視性**

- 1台または複数のVMに対してオンデマンドのスキャンを即座に設定
- VMware NSX Service Composerとの統合により各ハイパーバイザーへのSVA導入を自動化
- Data Center Connector for VMware vCenterの強化
- OpenStackとMicrosoft Azureに対応した新しいNew Data Center Connector

**容易な導入と設定**

- 複数のハイパーバイザーにSVAを導入・設定 (エージェントレス)
- McAfee ePOから検疫済みファイルを復元 (マルチプラットフォーム)
- AVパフォーマンスチューニングの診断と改善

**リソース最適化の向上**

- 柔軟なポリシーのチューニング (マルチプラットフォーム)

**エージェントレスオプションによるVMware環境への導入**

McAfee MOVE AntiVirusでは、VMware vShieldを活用して効率を改善できます。エージェントレス導入ではハイパーバイザーを使用してVMware vShield Endpointに高速接続する、McAfee MOVE AntiVirusのセキュリティ仮想アプライアンス(SVA)で、外部から仮想マシンをスキャンできます。SVAのスキャン後、vShieldの設定に

よって正規のファイルはキャッシュに保存され、不正なファイルは削除またはアクセスが拒否されます。

SVAと必要なvShieldのコンポーネントをESXサーバーにインストールして設定し、vShieldドライバをゲストVMにインストールすることで、各イメージは作成と同時に自動的に保護されます。各クライアントVMにMcAfeeのソフトウェアをインストールする必要はありません。vMotionが認識されるため、ホスト間で仮想マシンを移動してもターゲットホストのSVAでシームレスに保護され、スキャンやユーザーエクスペリエンスに影響はありません。また、McAfee製品の統合により、vCenter内のSVAの状況が監視され、SVAが切断するとアラートが送信されます。McAfee ePOソフトウェアには、VMが感染した場合、その詳細を示すイベントデータが送信されます。

**マルチプラットフォーム導入の標準機能と利便性**

マルチプラットフォーム導入では、McAfee MOVE AntiVirusエージェントはエンドポイントに軽量なコンポーネントとしてインストールされます。そして、各仮想マシンのウイルス対策の処理はオフロードスキャンサーバーで実行されます。ポリシーとスキャンの機能はMcAfee Agentによって管理されます。ユーザーはクリーンマスターとして使用するゴールドイメージを指定してスキャンすることもできます。ローカルキャッシュとクリーンイメージを事前に生成することで、最短時間でVMをブートアップできます。

ファイルにアクセスすると、McAfee MOVE AntiVirusのオフロードスキャンサーバーによってオンアクセススキャンが実行され、VMに結果が返されます。問題があればポップアップアラートで通知され、ユーザーは不正なファイルの削除、アクセス拒否または検疫を行えます。

**詳細情報**

McAfeeのソリューションは最適なセキュリティと柔軟性を提供します。

詳細については、<http://www.mcafee.com/jp/products/move-anti-virus.aspx>をご覧ください。

	アーキテクチャ	マルチプラットフォーム導入	エージェントレス導入
ハイパーバイザー/プラットフォームのサポート		VMware, Citrix, Hyper-V	VMwareのみ
スキャンサーバーのプラットフォーム		Windows 2008, Windows 2012 R2	Linux Ubuntu 12.4
拡張性		1台のオフロードスキャンサーバーで複数のハイパーバイザーの複数のVMを保護	ESXホスト1台に付きセキュリティ仮想アプライアンス1台
VMとの通信		ネットワーク経由	ハイパーバイザー経由

**マカフィー株式会社** [www.mcafee.com/jp](http://www.mcafee.com/jp)

- |        |           |                    |                 |                       |                   |
|--------|-----------|--------------------|-----------------|-----------------------|-------------------|
| 東京本社   | 〒150-0043 | 東京都渋谷区道玄坂1-12-1    | 渋谷マークシティウエスト20F | TEL: 03-5428-1100 (代) | FAX: 03-5428-1480 |
| 西日本支店  | 〒530-0003 | 大阪府大阪市北区堂島2-2-2    | 近鉄堂島ビル18F       | TEL: 06-6344-1511 (代) | FAX: 06-6344-1517 |
| 名古屋営業所 | 〒450-0002 | 愛知県名古屋市中村区名駅4-6-17 | 名古屋ビルディング13F    | TEL: 052-551-6233 (代) | FAX: 052-551-6236 |
| 福岡営業所  | 〒810-0801 | 福岡県福岡市博多区中洲5-3-8   | アクア博多5F         | TEL: 092-287-9674 (代) |                   |



IntelおよびIntelのロゴは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationの商標です。● McAfee、マカフィー、及び McAfeeのロゴは、米国法人 McAfee, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標または商標です。● 本書中のその他の登録商標及び商標はそれぞれその所有者に帰属します。©2015 McAfee, Inc. All Rights Reserved. ● 製品、サービス、サポート内容の詳細は、最寄りの代理店または弊社事業部までお問合せください。● 製品の仕様、機能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。